

英語科学習指導案

- 1 日時 平成27年6月5日（金）第1校時
- 2 学年 3年3組 男子20名 女子19名 計39名
- 3 指導者 入江 将紀
- 4 単元名 NEW HORIZON English Course 3 Unit 3 Fair Trade Chocolate

5 単元について

(1) 教材観

本単元は、ティムがフェアトレードチョコレートとその生産地の人々の暮らし等を通してフェアトレードについて考える内容で、フェアトレードに関するアンケート調査、フェアトレード製品についてのティムと父親との会話、フェアトレードチョコレートに関するテレビ番組、そのテレビ番組を見たリタからティムに届いた手紙という単元構成になっている。言語材料としては、現在完了形、to不定詞の副詞としての用法、調べた内容について説明したり自分の意見を主張したりするための表現等が扱われている。このような言語材料を基に、あるテーマや議題について、自分の経験を踏まえ、賛成・反対の意見や自分なりの感想を述べたり、それを支える理由や根拠、具体例等をまとめたりすることが可能である。よって、本単元では、生徒の身の回りの問題や社会の課題等について他の生徒と話し合いたいという意欲をかき立てる題材であると言える。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、積極的な態度で授業に参加しており、言語活動においても既習事項を活用しながらコミュニケーションを図ろうとする姿が多く見られる。意見を自ら述べるのが苦手な生徒であっても、身振り手振りや表情を用いるなどしながら、なんとか発言しようとする姿勢が見られる。

アンケートによると、多くの生徒は将来における英語の必要性を感じており、世界で解決すべき問題の存在や、文化の相互理解や知識・技術の共有等の重要性に気付いているようだ。このことから、グローバル社会に欠かせない知的コミュニケーションを活性化したり、協働的に活動する態度をはぐくんだりしやすい状態にあると考えられる。

さらに、アンケートを分析すると、英語の活動については、話すことに興味がある生徒が多く、全ての生徒が将来英語を話せるようになりたいと思っていることが分かる。また、特に、英語が話せるようになったら外国人と雑談がしたいと述べていることから、即興性のあるコミュニケーションに魅力を感じていることが分かる。しかし、一方で、生徒は英語を話したり書いたりする際に、文構造の正確性や語彙の適切な選択、綴りの正確性等について不安を感じていることも分かった。また、文と文とのつながりや、会話が詰まった際の対処法について悩みを感じている生徒も見られる。そこで、生徒の話すことへの興味を生かし、身近な話題について即興的に話す活動を積極的に取り入れたい。そして、その中で、既習の文法事項や知識を活用しながら、文と文とのつながりをもって適切に表現させることができるような手立てを継続的に講じることができれば、生徒の知的コミュニケーションの活性化につながると考えた。さらに、文構造等の正確性については、生徒の話す英語について、教師がやりとりの中で指摘し、頻繁に起こる誤り等について学級全体で共有で

きるよう教師の発話を工夫しながら、英語を話す活動を行いたい。その上で、話したことを基に書く活動を取り入れることで、教師は話す活動で気付いた誤り等を中心に適切に正確性について指導することができる。その後、再度話す活動を行わせることで、生徒により正確に英語を話させることができるので、生徒の不安を解消でき、活発な知的コミュニケーションを行わせることができる。もちろん、アンケートにもあるように、話すことに興味はあっても、得意ではない生徒や苦手な生徒もいることから、協働的な活動を取り入れることで、互いに協力し合いながら言語活動に取り組ませたいと考えた。また、協働的な言語活動では、自分の意見と他の意見を比較したり組み合わせたりすることができるので、よりよい意見を生み出しやすくなると考えた。このような言語活動を通し、生徒一人一人が自信をもってコミュニケーション活動に取り組めるようにしたい。

また、アンケートから、聞くことに苦手を感じている生徒が多くいることも分かった。理由としては、スピードに付いて行けずに聞き取れなかったり、聞き取った英語を素早く日本語にすることができず、十分な理解に至らなかったりすることが挙げられる。そこで、本単元では、生徒が意見等を発表する際には最も伝えたいことを簡単な英語でまとめさせたり、聞き手に分かりやすく伝えさせたりできるようにすることで、生徒が他の生徒の英語を聞く際に理解しやすくなると考えた。また、生徒が自身の考えの要点をまとめたり、聞き手にとって難しい語彙の使用を避けたりすることで、相手を意識し、かつ、自分の言葉で分かりやすく伝えさせることを可能とする。このことが、知的コミュニケーションの活性化に繋がると考えた。

(3) 指導観

本単元の特性を生かし、フェアトレード製品に関連する議題について生徒同士で議論し合い、議論した内容を基に自分なりの意見文を書くことができるような授業を展開したい。そのために、まず、small tasksにおいて、教科書の内容を中心に、自分の経験や意見を述べたり、それらに対する理由や根拠、賛否をまとまりをつけて表現するための言語材料を理解させる。言語活動においては、相手の意見に対し適切に応答するために必要な表現や自分の意見を相手に適切に伝えるために必要な表現を繰り返し練習できるような活動に継続的に取り組ませる。その後、「フェアトレードについて議論しよう」という middle task に取り組ませ、これまで身に付けた知識・技能や経験を活用させながら、意見や考えを明確にもたせ、その理由等を踏まえながら、議題について話し合わせる。また、生徒自身の意見と他の生徒や教師から得た知識や情報を再構成しながら考え、表現させる経験を積ませる。さらに、その際、資料やキーワードを用い、相手に伝えたい内容を簡潔に分かりやすく伝えさせる経験も積ませたい。また、教師の発話も知的コミュニケーションを意識した内容で構成し、生徒に英語での知的コミュニケーションを積極的に経験させたい。加えて、協働的な視点を持ち、生徒が互いに協力して、それぞれのよさを認め合いながら、よりよい考えをつくりだしていけるようにしたい。そして、「フェアトレードについて自分の意見を発表しよう」という large task に取り組ませ、middle task や small tasks の経験を生かし、様々な情報を再構成しながら、議題について意見文にまとめさせる。

このような指導を通して、知識や情報を再構成する力や相手を意識する力を高め、協働的な言語活動を活性化することで、円滑なコミュニケーション能力が高まり、国際的な視野を持ち、円滑にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

【アンケート結果】 (アンケート対象者：3年3組 男子20名 女子19名 計39名)

1 英語の活動の中で、最も興味がある活動はどれですか。		
ア	話す活動 (理由：外国の人と話したいから、将来役立つから、楽しいから、効力感を得られるから など)	72%
イ	読む活動 (理由：じっくりと考えることができるから、物語が楽しいから、英字新聞を読めるようになりたいから など)	15%
ウ	聞く活動 (理由：他の人の考えを知ることができるから、英語の音に興味があるから など)	10%
エ	書く活動 (理由：じっくりと書く内容を考えることができるから など)	3%
2 英語の活動の中で、最も不安を感じている活動はどれですか。		
ア	聞く活動 (理由：スピードについていけないから、音の繋がりが聞き取れないから、瞬時に英語を日本語にできないから など)	44%
イ	書く活動 (理由：文法や綴りのミスがあるから、文をうまく繋げられないから など)	28%
ウ	話す活動 (理由：相手に伝わっているか不安になるから、即興性に不安があるから、文と文とをうまく繋げられないから など)	23%
エ	読む活動 (理由：文と文とのつながりを捉えられないから、発音が難しいから など)	5%
3 あなたは、将来英語を話すことができるようになりたいですか。		
ア	是非なりたい (理由：グローバル化が進むから、将来海外で働きたいから、将来の職業で役立つから、海外に住みたいから など)	87%
イ	できればなりたい (理由：外国で役に立つから、海外の文化に触れたいから、カッコいいから、外国人と話す機会が今後増えるから など)	13%
ウ	あまり必要性を感じない	0%
エ	なりたくない	0%
4 英語を話せるようになったら、外国の人を相手にどのようなことをしたいですか。		
ア	雑談	88%
イ	電話	6%
ウ	議論	6%
エ	意見発表	0%
オ	その他	0%
5 英語で話すことは得意ですか。		
ア	とても得意 (理由：人と話すことは楽しいから、相づちやジェスチャーでも伝われば嬉しいから など)	5%
イ	どちらかと言えば得意 (理由：相手のことを考えて表現することが楽しいから、ミスをして相手も分かってくれるから など)	36%
ウ	どちらかと言えば苦手 (理由：単語が思いつかないから、正しく話せているか不安だから、頭の中で上手く文を組み立てられないから など)	49%
エ	とても苦手 (理由：発音が苦手だから、簡潔に話すことができないから など)	10%
6 英語を話す力を高めるために、今の自分に最も足りていない、また、最も足りていると感じていることは何ですか。最も当てはまるものを一つ選びなさい。		
【足りていないもの】		
ア	文法の正確性	33%
イ	豊富な語彙	23%
ウ	文と文とのつながり	15%
エ	発音やイントネーション	10%
オ	簡潔に話をまとめること	10%
カ	例え話	5%
キ	ジェスチャーや表情	4%
ク	その他	0%
【足りているもの】		
ア	ジェスチャーや表情	28%
イ	文と文とのつながり	18%
ウ	発音やイントネーション	15%
エ	文法の正確性	13%
オ	豊富な語彙	10%
カ	例え話	10%
キ	簡潔に話をまとめること	6%
ク	その他	0%

7 将来英語が必要だとよく言われますが、英語を話すことは将来なぜ必要だと思いますか。

- ・日本に住む外国人が増えるから ・仕事で話す機会も増えるから ・英語が話せないと通用しない世の中になるから
- ・海外に進出し、視野を広げる必要があるから ・オリンピックが開催され、グローバル化が進むから
- ・社会において、互いを認め合い、共に生きる仲間として認め合うため ・仕事に役立てたいから

8 英語で話す際、なんとか会話をしようと思いませんか。また、その際の自分の心境や状況はどのようなものですか。

ア 積極的に話す.....	28%
イ どちらかと言えば話そうとしている.....	64%
ウ どちらかと言えば話そうとはしていない.....	8%
エ 消極的で話そうとしない.....	0%

【心境や状況】

ア 話す内容は思いつくが、語順や単語に不安がある.....	56%
イ 話す内容は思いつくが、その内容をうまくまとめられない.....	18%
ウ 話す内容は思いつくが、話の流れや相手の意向に沿っているかなどに不安がある.....	10%
エ 話す内容が思いつかない.....	8%
オ 話す内容は思いつくが、話の切り出し方が分からない.....	8%
カ その他.....	0%

9 今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか。また、その中で、一番多く参加したことがある活動や一番印象に残っている活動について、その活動内容を教えてください。

ア 募金（赤い羽根募金、緑の基金、手術支援金、復興支援金 など）.....	38%
イ 清掃（公園清掃、町内清掃 など）.....	36%
ウ 物を送る（ユニセフ、ワクチン寄付 など）.....	15%
エ その他（幼児との交流、資源回収、介護体験 など）.....	11%

6 単元の計画

(1) タスク「フェアトレードについて自分の意見を発表しよう」

(2) large task で活用させたい主な言語材料

言語の働き	学年・単元	教科書での表現
紹介する	1年 U2-③ 2年 U2-RfC 2年 U2-RfC	Kevin, this is Becky. Now I'm going to tell you about kiwis. People call it Mt. Taranaki.
説明する	1年 U2-③ 1年 U6-① 1年 U11-① 2年 U7-RfC 3年 U1-SO 3年 U2-SO 3年 U3-SO	He's a very good basketball player. She teaches university classes, too. We enjoyed the food and the view. Becky is my best friend. The group is loved by many people. I have lived in Japan for three years. If you buy fair trade chocolate, more money goes to the farm workers.
意見を言う	1年 U4-② 2年 U3-D 2年 U5-D 3年 U3-SO 3年 U3-RfC	It's not easy, but I study hard. I want to use English in my future. I think that I can do something for others. I have never heard of it. You say, "To eat, drink, and learn is the right of every child."
感想を述べる	1年 U4-② 2年 U1-RfC 3年 U1-RfC 3年 U3-RfC	It's interesting. I was very surprised. Her song makes me happy. I am glad to hear that.
理由を述べる	1年 U5-② 2年 U5-RfC	I like world music. So I have CDs from a lot of countries. I am for the service because we can help people.

(3) large task における活用例 (フェアトレードについて書かれた意見文の例)

I think that we must think about how to sell more fair trade products. They are very important for the children in Africa, so people should sometimes buy them. But we don't have so many chances to know about them. Now I have two ideas.

First, fair trade products should have their interesting design. Some of those products are usually not so cool. But I've found very cute one in AEON. The chocolate had a very cute character on the package. Then I was excited to see it. If we can make some characters of fair trade products, more people will be interested in them.

Second, the products should be known through TV commercial. Now we have to visit the website to know about fair trade. I know we can get a lot of information on the website, but it's difficult for people to keep checking it. If we can see TV commercial about fair trade, it will be easy to understand it.

Fair trade is very important. We can help people in need with little money. Let's think about our brothers, sisters and family on the Earth.

(4) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れず自分の意見を発表したり、友人や教師の意見に関心をもちながら聞いたりしようとしている。 ② 既習事項を用いて、何度も書き直したり、辞書を使いながら意見文を書いたりしようとしている。	① 既習事項を用いて、まとまりのある文章で意見文や手紙を書くことができる。 ② 理由や根拠を基に自分の意見を適切に発表することができる。	① フェアトレードについて書かれた英文について、既習事項を活用して理解することができる。 ② フェアトレードについて話された英語に対し、その内容に応じて、適切に質問したり反論したりすることができる。	① 現在完了形の形・意味・用法を理解している。 ② to不定詞の副詞としての用法の形・意味・用法を理解している。 ③ 理由や根拠、賛成・反対を表す表現を理解している。

(5) 指導と評価の計画 (太枠は本時)

時間	○タスク・学習活動	単元の評価規準	評価方法 (総括的評価)
1	○ [small task] 単元のあらましを理解しよう ・ Unit3のスキーマ形成 ・ large task の設定	ア-①	活動の観察
2	○ [small task] アンケート結果をまとめて発表しよう ・ Starting Out の内容理解と音読練習、現在完了形の形、意味、用法の理解と表現練習 ・ アンケートの作成とその結果の発表	エ-①	後日ペーパーテスト
3	○ [small task] フェアトレード商品を紹介し合おう ・ Dialog の内容理解と現在完了形の形、意味、用法の理解と表現練習 ・ ペアでのフェアトレード商品の紹介	エ-①	後日ペーパーテスト
4	○ [small task] フェアトレードの現状について理解しよう ・ Reading for Communication の概要把握と音読練習 ・ フェアトレードに関する記事や資料の読解 ・ フェアトレードについての意見交換	ウ-①	後日ペーパーテスト
5	○ [small task] リタに手紙を書こう ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習、to不定詞の副詞としての用法の形、意味、用法の理解と表現練習 ・ 賛否の表し方の理解と表現練習 ・ リタへの手紙の作成と発表	イ-① エ-②	ワークシート 後日ペーパーテスト

6	○ [middle task] フェアトレードについて議論しよう ・ ペアでのフェアトレードについての意見交換 ・ グループでのフェアトレードについての議論に向けた意見文や質問文の作成	イ-① エ-③	ワークシート 後日ペーパーテスト
7	○ [middle task] フェアトレードについて議論しよう ・ グループ同士でのフェアトレードについての議論 ・ 学級全体でのフェアトレードについての議論	ア-① イ-② ウ-②	活動の観察 ワークシート 議論
8	○ [large task] フェアトレードについて自分の意見を発表しよう ・ フェアトレードについての意見文作成と発表練習	ア-② イ-①	活動の観察 ワークシート
9	○ [large task] フェアトレードについて自分の意見を発表しよう ・ フェアトレードについての意見発表と相互評価	イ-① ウ-①	ワークシート 意見発表

7 本時の計画

(1) 本時のタスク

「フェアトレードについて議論しよう」

(2) 指導の重点

「話すこと」「聞くこと」

(3) 本時の目標行動

導入時において、前時までの内容の復習を行う。さらに、ペアでフェアトレードについて簡単な意見交換を行った後、教師とのインタラクションを通してタスクを把握する。次に、前時にエキスパートグループにおいて話し合ったフェアトレードに関するそれぞれの立場からの意見や他の意見に対する反論の内容を再度確認した後、他のグループと模擬議論を行う。その際、各グループで教師の質問に答え、それぞれの意見の問題点を確認し、意見を練り上げる。さらに、全体でそれぞれ考えた内容について、キーワードを挙げながら意見発表をしたり、そのキーワードや意見に沿って反論や質疑応答を行う。その後、ホームグループに戻り、意見交換の内容を生かし、フェアトレードについてその理由や根拠を明確にしながら考えまとめる。その後、全体に各自の意見を発表する。最後に、教師とのやりとりから、本時の授業内容を踏まえ、実生活でどのようなことを実践していきたいか考える。

(4) 本時の指導目標

ア 間違いを恐れず自分の意見を発表したり、友人の意見に関心をもちながら聞いたりする態度をはぐくむ。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

イ 理由や根拠を伴って適切にフェアトレードについて意見を言うことができるようにさせる。 【外国語表現の能力】

ウ フェアトレードについての意見を聞き、内容に応じて、適切に質問したり反論したりすることができるようにさせる。 【外国語理解の能力】

エ まとまりのある英文で意見、その理由や根拠について表現するために必要な表現を理解させる。 【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 授業設計上の工夫

ア 協働的な言語活動を充実させるための工夫

・ ジグソー学習（教科論6-(1)-ア-(7)）

ジグソー学習を活用した活動を取り入れることで、生徒一人一人が活動に対する自らの役割と責任を自覚できるようにする。その上で、生徒に互いの知識・技能や経験を基に、各グループで協働的に関わらせ、よりよいアイデアを練り上げることができるようにする。また、その活動の中で、様々な形態のエキスパートグループやホームグループにおいて議論をさせることで生みだされる複数回の発散・収束の中で、生徒同士がそれぞれ身に付けた知識・技能や経験を互いに活用し合い、よりよい考えをまとめることができるようにする。

具体的には、まず、生徒に賛成・反対、与えられた立場において個々に議題に対する意見やその理由・根拠をもたせる。その上で、賛成か反対の同じ立場同士・同性の4人組のエキスパートグループを作らせ、それぞれが持ち寄った意見やその理由・根拠を組み合わせたり比較したりしながら、よりよい意見を考えさせる。また、その意見や理由・根拠に対する教師の反駁に対し、意見を述べることで、さらによりよい意見にさせる。さらに、4人組のグループ同士での模擬議論を行わせる。その際には、班員一人一人に役割を担わせ、責任感をもって活動に取り組みせると同時に、その後の議論に自信をもって取り組めるようにする。その上で、学級単位での議論を行わせる。学級を二分したそれぞれのグループを、一つのホームグループとして捉え、互いが議論し合うことで、異なる意見が組み合わせられ、生徒が議題に対するよりよい解決策を見いだすことができると考えた。その後、4人組のホームグループに戻り、自分の立場から意見を述べ合わせることで、さらに生徒は意見を発散・収束させることができ、よりよい考えを得ることができる。

このような工夫を通し、生徒同士がそれぞれ身に付けた知識・技能や経験を互いに活用しながら、互いの考えをよりよく理解したり、表現したりすることができるようになれば、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力・理解力を育成できると考えた。

イ 「相手を意識する力」を高める工夫

・ 要約のための言語活動の工夫（教科論6-(1)-イ-(1)）

相手を意識したコミュニケーションを行うためには、生徒自身やコミュニケーションの対象となる相手もっている知識や情報等を再構成し、表現に結びつける必要がある。そこで、言語活動を工夫し、生徒それぞれの考えた内容を視覚的に表出させ、それらが再構成しやすい状態に整理させることで、生徒が互いの知識・技能や経験等をよりよく要約したり、他の意見に反駁したりできるようにする。

また、生徒が議論を展開する中で、生徒の発言に対し、発言内容を基に「簡略化」や「例示」、「理由・根拠」などの観点から教師が発話を返すことで、生徒が適切に情報を要約したり、意見に適切に反駁したりすることができるになり、知的コミュニケーションが活性化すると考える。また、その中で文法事項等の誤りを正すことで、生徒の正確な表現も促すことができると考える。

このような工夫を通し、生徒同士がそれぞれ身に付けた知識・経験等を互いに活用しながら、それらを再構成し、自分たちの考えを相手によりよく伝えることができるようになれば、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力・理解力を育成できると考えた。